

NEWS LETTER No 19

KIRPについて

京都地域未来創造センター (KIRP)は、京都府立大学の 「知」を活かし、地域の未来を 創るための拠点として発足した 地域に向けた総合窓口です。共 同研究、受託研究等に関するご 質問、ご相談があればお気軽に お問い合わせください。

Tel: 075-703-5390 Fax: 075-703-4979 mail: kirpinfo@kpu.ac.jp

HP: http:// www.kpu.ac.jp/

〒606-8522

京都市左京区下鴨半木町1-5 稲盛記念会館 1階

京都府立大学

京都地域未来創造センター KYOTO INSTITUTE FOR REGIONAL PROSPECTS





2021年度 「まちづくり人材育成プログラムin 京都(仮)」 を開講します

本センターでは、来年度、「まちづくり人材育成プログラム」を開講します。近年、まちづくりにおける市民参加や市民協働は、行政施策として制度化され、まちづくりの領域にも広がる一方で、協働「疲れ」や形骸化も見聞きします。このプログラムでは、座学とフィールドワーク、参加者同士のディスカッションを通して、「市民参加や市民協働は住民の暮らしの質をどう高めるのか、幸せにどうつながるのか」という視点から、まちづくりを考え直すきっかけを提供します。対象は、行政職員、NPO、大学研究者、学生、民間企業、議員など、住民主体のまちづくりに関心のある方です。詳細は後日、案内します。

企画運営協力

アメリカオレゴン州・ポートランド州立大学公共サービス実践センター (Center for Public Service)

ACTR(地域貢献型特別研究)報告会のご案内

「京都府立大学オリジナル酒「なからぎ」の歩みとリニューアル」報告会開催 2021/1/29



本学では、2012年度以降、地域貢献型特別研究(ACTR)で京都府及び伏見酒造組合等と連携し、府独自の酒造好適米「祝」と酒造原料米の新品種「京の輝き」の特性を研究し、2014年度には「京の輝き」を使った府大オリジナル酒「なからぎ」をプロデュース。さらには、酒米粉を使用したパンや副産物である酒粕を活用した「なからぎマカロン」、「なからぎトリュフ」、「なからぎ酒粕の奈良漬け」などを開発してきました。

今年、京都市産業技術研究所で新酵母「京の恋」が研究開発され、酵母の変更、ならびに透光性が低い緑色の瓶へと「なからぎ」をリニューアルしましたので、新たな「なからぎ」のお披露目と共に、この間の「なからぎ」に係るACTR及び産学公連携の取組の成果を総括する成果報告会を開催いたします。

HPのURL: https://www.kpu.ac.jp/contents_detail.php?frmld=8218 申込みフォーム: http://www.kpu.ac.jp/contents_detail.php?frmld=8218

精華キャンパスACTR(地域貢献型特別研究) 成果発表のご案内 2021/3/9

本大学精華キャンパスでは、地域課題の解決に向けた研究に積極的に取り組むため、地域貢献型特別研究(府大ACTR)を実施しています。2020年度に採択され、取り組んだ研究の成果を紹介します。

場所:京都府立大学生命環境学部附属農場 3/9 (火) 13:30 ~ 15:30

- 〇ドローンを活用した果樹鳥獣害軽減方法の確立と生育モニタリングによる栽培高度化 板井章浩教授(生命環境科学研究科)
- 〇絶滅したと考えられた京都固有在来ブドウ品種'聚楽'の復活と新たな利用方法の確立 板井章浩教授(生命環境科学研究科)
- 〇京都府産宇治茶の独自性と優位性を確保・発展させるための茶の生産性及び樹勢データに基づく 収量予測の研究 久保中央教授(生命環境科学研究科)
- ○「洛いも」の地域ブランド力強化に向けた褐変抑制・低温耐性系統の作出および普及戦略の構築 伊達修一講師(生命環境科学研究科)
- 〇京都府希少農産物(城州白梅と京野菜)を絶滅危惧から脱却させるための食品機能性実証と栽培 マニュアル作成 森本拓也講師(生命環境科学研究科)
- ○京都府産もち米を利用した水あめの開発に関する研究 佐藤洋一郎特別専任教授(文学部)・増村威宏教授(生命環境科学研究科)

HPOURLhttps://www.kpu.ac.jp/contents_detail.php?co=new&frmld=8231

「コロナ禍における伝統行事への影響に関するアンケート調査」を実施 府大ACTR「地域文化財を活用した山間地区コミュニティの維持方策の研究」(2年目)

京都市北部山間地区は独特の歴史文化が発展した地域であり、独自の祭礼や行事が地域コミュニティの紐帯を担ってきましたが、過疎化・高齢化に伴う担い手不足から存続が難しくなっています。文化財の消滅はコミュニティの崩壊を加速させるものであり、コミュニティの維持・活性化と文化財の維持・活用は、両輪として解決すべき課題です。こうした課題は近年の政策や法整備でも意識されており、2019年4月施行の改正文化財保護法では、文化財の保存活用による観光産業の展開や地方創生を進めることが意識されています。

2年目となる今年度は研究内容を変更しコロナ禍における伝統行事への影響に関する調査を行っています。内容はオンライン勉強会(13回)の開催、京都市文化財保護課・地域自治推進室担当者への聞き取り、京都市左京区の無形民俗文化財の保存会を対象としたアンケート調査、和歌山県有田川町などの先進地視察です。年度末に調査結果をまとめる予定です。

研究代表者:

上杉和央文学部歴史学科准教授(センター統括マネージャー)、鈴木暁子(センター

コーディネーター) 写真:国選定重要文化的景観「蘭島及び三田・清水の農山村景観」 (和歌山県有田川町)の現地調査







桜楓講座開催について

京都府立大学では、毎年、春と秋に公開講座「桜楓講座」を開講しています。 本学の各学部の教員が各々の研究内容を分かりやすく解説し、毎年度多くの方にご 参加いただいています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、延期していた春の部の講座も含め、リレー講座としてオンライン配信をいたしました。

顔の見えない配信という新しいかたちでの講義でしたが、多くの方にご視聴いただきました。

全体での公開は終了しましたが、本学のHPにて限定公開しております。 ご興味のある方はぜひご視聴下さい。

※予告なく動画の公開を終了することがあります。ご了承ください。

動画公開ページのURL https://www.kpu.ac.jp/contents_detail.php?frmld=3587

地域創生COC+プログラム便り

「わしる隊の冬の活動レポート」

わしる隊の冬の活動を紹介します。12月までに刈り取った楮を桶に詰める作業をお手伝いさせていただきました。 隙間なく詰めた重い桶を釜に設置する作業では、職人さん方の息のあったプレーを見ることができました。桶ごと蒸 しあがると、とても美味しそうな焼き芋の香りがしました(笑)

構や和紙、地域の話を教えていただきながらの皮へぎ作業はとても楽しく、時間を忘れるくらい夢中になってしまいました!

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。今後も活動に参加していきたいです。

(わしる隊メンバー)



↑楮蒸しをする組合の方々



↑皮へぎをする学生



↑京都府立大学COC+につては、 こちらをご覧ください